

「メイド・イン・吉野」で癒しの時間に 寄り添う灯りをつくる

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かし、新しいモノづくりの挑む「匠」を応援する。

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏(建築家/東京大学教授)、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究所)らをサポートメンバーに発足。

昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェラー家主権のチャリテイイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身もTVやwebメディアへの掲載など目覚ましい活躍を見せている。

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー・高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが

「メイド・イン・吉野」のモノづくりを応援

LEXUSが日本全国の「匠」のモノづくりを応援



プレゼンテーションの様子

実際に工房を訪ね、途中経過のプロダクトをうけて行うエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの試作に取り組んだ。

1月17日に都内で行われた商談会では、百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイナー関係者などに向けて半年間をかけて製作した自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。また、商談会の終盤ではヒームスジャパンとのコラボレーション企画「LIFE with NEW TAKUMI」新しい匠、新しい暮らし」が発表されるなど、プロジェクトも進化している。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながらその魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。奈良県選出の匠、吉野檜あかり作家の坂本尚世さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

吉野の素材を生かした照明の制作

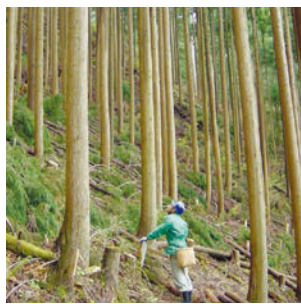
坂本さんは「ライトセラピー」という癒しの照明をテーマに活動する。林業が盛んな吉野町に生まれ、実家は吉野ヒノキを扱う製材所だ。山から切り出した木材を売買する木材市場が通学路にあるなど吉野の木に囲まれて育つ。インテリアの専門学校で学んだ後、吉野ヒノキや吉野スギ、吉野手漉き和紙など地元の良質な素材を使った照明インテリアの制作に取り組み始める。2004年に工房兼常設ギャラリー「あかり工房吉野」を設立。関西を中心に全国で個展やワークショップを展開している。



穏やかな山並みが美しい吉野の風景

吉野の山並みや美しい水と結晶をモチーフに

以前からコードレスの照明を求めている声があり実用化を目指していたが、1つずつ手作りしているため大量に受注しても一気に制作する



よく手入れされた吉野の山林

ことは難しく挫折していた。今回の企画を絶好の機会ととらえ、コードレスLEDミニランプ「吉野の灯り」の制作に取り掛かることに。そこで、プロダクトの基本となるLEDパーツを丹念に探してみたところ、該当する部品が見つかった。基盤と電池ボックス、電源を入れるスイッチが一体化したキットが製造されていたことも製品化に弾みがついた。それにより場所を選ばず設置でき、電圧の違う外国でも使用できるプロダクトの制作に光が見えてきた。

小山氏から「スイッチ部分にカバーを付けるなど目立たない工夫をしてみては」とのアドバイスを受けたり、下川氏からは「吉野らしい山形シェードがあったらいいのでは」との提案もあった。坂本さんはそれぞれのアドバイスを巧みに取り入れながら地元の素材



木材市場に並ぶ原木丸太



製材後に加工された吉野ヒノキの柁目材

美しい吉野ヒノキを使い照明の質を追求



制作中の坂本尚世さん

を生かしたデザイン性の高いミニランプに仕上げている。

チーム「メイド・イン・吉野」で製品化へ

新たなチャレンジャーとして、隣の東吉野村で工房を構える「維鶴木工」に台の制

イオレンジ色の光が実現した。

吉野ヒノキを機械カンナを使って約0.1ミリにスライス。それを吉野の手漉き和紙を下貼りしたシェードに張り合わせた。3パターンのサイズと3種類の模様のある9アイテム。模様は吉野の深い山並みや美しい水と結晶をモチーフにし、手に取った人が吉野の大自然をイメージしてもらえるデザインを考案した。基本パーツの台にも吉野ヒノキを使い改良を重ねた。和紙は1300年前から続くといわれる吉野手漉き和紙を使用。きめが細かく薄くても強度が高いことが特徴。漂白していない自然な色で光の拡散性が高く、中のライトが和紙を通すことで光量を保ちつつやわらかく暖かな光に姿を変える。目にするすべての人がリラックスできるような暗めで不均質な炎に近い



完成プロダクト「コードレスLEDミニランプ 吉野の灯り」

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

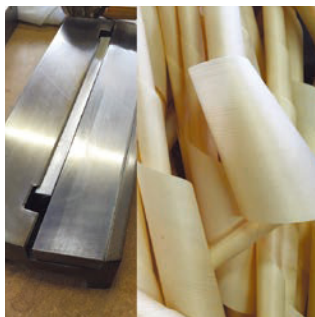
1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒。「料理の鉄人」や「ニューデザインパラダイス」、映画「おくりびと」など数多くのヒット作品の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



坂本 尚世
奈良/吉野檜あかり作家

奈良県吉野町生まれ。吉野檜の製材所を営む家で生まれ育つ。短期大学を卒業後、デザインの専門学校でインテリアデザインを学び、吉野檜を薄くスライスし貼り合わせる独自の手法でリラックスするための灯り作りを始める。2004年工房兼常設ギャラリー「あかり工房吉野」設立。関西各地や東京でのギャラリーやショップにて個展・グループ展で展示販売する。

LEXUS
NEW
TAKUMI
PROJECT



坂本尚世 奈良/吉野檜あかり作家